

11月26日(土) 埼玉県営スポーツ文化公園熊谷ラグビー場において、第5回ガールズラグビーフェスティバルが開催されました。当日は11月下旬とは思えない好天に恵まれ、選手たちは日ごろの練習成果を発揮した、力強く、かつ、ガールズの名にふさわしい華麗なプレーを見せました。地元関東甲信越エリアはもとより、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県、宮城県、福島県などの東北から、遠くは北海道の2クラブを含む52のクラブチームから、約300名の中学生以下の女子選手達に参加しました。



ワセダクラブからは、U-8(低学年)に國谷蘭さん、U-10(中学年)に竹内風瑚さん(小4)、U-12(高学年)に井上愛月さん(小6)、岩花美南海さん(小6)、U-15(中学生)に平野瑞葉さん(中2)、横山海夢さん(中2)の6名が参加しました。試合はU-8からU-12は、各チームとも4試合以上行われ、総試合数は12試合から16試合行にもなりました。また、U-15は3チーム総当たりで、15分ハーフの3試合が行われました。



日頃は男子と混合の練習や試合をしている選手がほとんどですが、この日ばかりは女子だけということもあり、思い切りの良いプレーが数多く見られていました。腕や背中にガムテープで名前を貼り、互いの名前を呼び合うなどの工夫をして、ボールをつなぎ、ステップを切り、トライを決めたり、厳しいタックルで相手の攻撃を防いだりと、親、コーチ、サポートの女性スタッフの声が思わず大きくなる場面がたくさん見られました。また、試合後のチーム・ミーティングで、思い通りのプレーができなかったことに悔しさが募り、涙を見せる選手もいました。



5回目を迎えた今大会では、主催者側もより良いプレーができるようにとの考えから「ナイスランニング賞」を設け、U-8の部で國谷蘭さんが、見事受賞しました(ランちゃん、おめでとう!)。試合の合間には、体力測定コーナーに集まり、自分の体力を女子日本の選手の数値と比較して楽しんでいました。試合後には、「新しい友達を見つけよう」というコンセプトのもとに主催者が準備した「お友達カード」を交換する光景が、あちこちで見られました。



表彰が行われた閉会式では、主催者の並木大会実行委員長から「来年も来てください。」と呼びかけがあり、選手達からは笑顔で「はい!」と大きな返事がありました。